

四谷の

千枚田たより

長野県生坂村 視察研修
文部省

卷之三

一生耕耘では高齢化や人口減少により、農業者の減少や耕作放棄地の拡大が懸念されていることから、地域ぐるみの話し合いにより農地を含め、地域農業をどのように守つていかを具体的に検討していくため、令和五年度から農林水産省の最適土地利用総合対策事業を活用し取り組みを進めています。

そこで、先祖から受け継いだ貴重な農地の利用を通じた地域の魅力づくりの動機、手法、仕組み等に関する取り組みについて学び、農用地の効率的かつ効果的な利用を促進するため、下記のとおり視察研修を実施する運びとなりました。

つきましては、貴会における取り組みについて視察研修をさせていただきたくご多忙中の折とは存じますが、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

生坂村長 藤澤泰彦
视察日時 令和八年一月十五日
视察メンバー 生坂農業未来創
り プロジェクト会議 十三名
视察研修には生坂村長さんもお
越しいただけることから会場を「市
民センターほうらい」に設定、下江
市長から歓迎挨拶をいただいた。
「生坂の皆さん本日の视察につい



て、四谷の千枚田を選んでいただき
たことに心から感謝申し上げます。

第 269 号



年に保存会を発足しました。保存会の活動は農水省の「ディスカバ―農山漁村「むら」の宝」受賞を始め数々の受賞からも、その努力、評価などもしつかり伺われております。

千枚田では、連続特Aにランクされている「ミネアサヒ」を栽培、立地条件を活かした(湧き水・天日干し)美味しいお米を作っております。

また、市内で一番大きな工場、横浜ゴム新城工場の新人幹部研修の受け入れが端を突いて同社が率先、官民参加型の環境保全活動の場とした外来植物の伐根作戦やビオトープの造成管理などの活動。また、愛知県こども農学校、地元小学校豊橋調理製菓専門学校の稻作体験を受け入れなど様々な形で棚田の保存継承に活路、協力していただいております。本日、皆様に置かれましても有意義な研修になりますことを願います」と歓迎の挨拶。

生坂村藤澤村長は、「小さな村でございまして、長野県は平成の市町村合併がそれほど進まず七十七市町村ございます。そして村は三十五あり生坂村は十一番目で人口が現在千六百人を切つてしまいました。そんな状況の中、当村の主要産業である農業を盛んにしていこうと「生坂村農業未来創りプロジェクト会議」を立ち上げました。当村のブドウ栽培はほぼ順調に推移していますが先祖から受け継いだ農業も高齢化であつたり、また他の作物をどのように作つていけばいいのかなどと村ぐるみで地域計画を立て、模索しているところでございます。

本日は本当に貴重な時間をち



ようだいして恐縮でございますが、我々もしつかり勉強をさせていただき生坂村の農業の活性化また維持に繋げて行けばとの思いから視察をお願いした次第であります。どうぞよろしくお願ひいたします。

名刺交換自己紹介に続いて小山保存会長から活動内容を「ディスカバーむらの宝」応募資料を基にパワーポイントで紹介した後、現地を案内した。※概要説明は長々と述べたことから割愛。

質疑応答(Q & A)ではQ 小さな段々田んぼは全部手作業か? A 耕運機、田植え機、バインダー、ハイベスターなど全部農機使用 Q こんな急所を耕していくのを見て甘えてはおれん、頑張りを貰つた: Q 生産米の販売は? A 規模が小さく販売はほぼないが、余剰米(古米)を「千枚田五平餅」として丸八製菓(豊橋市)と製品開発、東三河郵便局の協力を得て宅配便で全国展開、好評であるQ 国など行政支援は? A 直接支払制度、加算など Q 害獣被害、対

拝啓 厳冬の候 皆様におかれましては益々
清榮のこととお慶び申し上げます
この度は 貴会への視察に際しまして ご多忙
中にもかかわらずご指導を賜り誠にありがとう
ございました
おかげをもちまして 貴会の農業の取り組みや
先祖から受け継いだ貴重な農地の利用を通じた
地域的魅力づくりの動機 手法 仕組み等につ
いて学ぶことができ 有意義に視察を終えるこ
とができましたこと 厚く御礼申し上げま
す

策は? A シカ、イノシシ、サルによる被害が頻発、本日配布した「四谷の千枚田だより」を参照、野生動物の進化から人と獸の知恵比べ、獸に負けている Q 生坂はブドウ園のサル対策に侵入防止柵の上部に電気柵を設置、効果がある等々、闊達な意見交換がなされた。

生坂村視察研修参加者

村長	農業委員会議員	三名	農業者	二名	農協	三名
職員	二名	農業委員会議員	二名	下江新城市長	安藤産業振興課長	道の駅駅長
二部長	二名	請井鳳来総合支所長	奥平東海農政局愛知拠点地方参事官ほか三名	地域課長	小山保存会長	後日、生坂村から「丁寧なお礼の書面が届きました。

生產活動

三月二十日
一月十七日、中山間地域等直接支
払い制度四谷集落協定（村雲伸一代
表）の構成員は生産活動の一環とし
て指定地以外の耕作放棄地も含め
た草刈り（環境保全）を行った。



雪はかなわん
今季はいつになく雪が多く、東北地方や日本海側は三十年ぶりの豪雪で雪かきに自衛隊までも出動する有様で、生活にも支障が生じている、本当に気の毒だ。
当地に於いても昨年の十二月十四日(土)、十四日はちらつく、「二十二日」、十五日(日)が積もり、二十五日まで毎日雪が舞つた。三十日は十五日(火)の積雪があつた。(積雪量は千枚田)

一月三十日、朝の散策の帰り道、古宿組の衆が生道の雪搔きを行つていた。「大変だノンご苦労さま」と声をかけたら弓脇の勝つちやが「：参つちやうぞン、これで今年二回目だ。搔かんと夜中に凍つちやつてつるんツルンになつて危なくてしょんないでノン。こつち（大林）とあつち（身平橋）じやあえらい違いだゾン」と言いながらセツセと雪搔きに励んでいた。

そんな最中、素通りもできず「わるいノン すまんノン」と気遣いながら家路についた。

NHKヒストリー放送

渡辺いつけい／片身の眼鏡と謎の旅芸人「どうすけ」が一月十六日に放送された。

ヒストリーでは父母の生い立ち、故郷などで地域住民や身近な方々の取材協力から構成された。

私は渡辺一恵（いつけい）さんのお母親伊藤しま子「しまちや」の故郷



行
令和八年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会

ひとつに、夏には「釜淵
だりジンタ（雑魚釣りなどで遊び、
急峻な「かしやげ峠」を大声で歌い
ながら帰った：等々、また「全国棚
田サミット開催十周年記念」や「お
田植え感謝の夕べ」などにお招きし
たりの絆は今でも続いている。
そうそう、しまぢやが「恵ちゃん
をおんぶした「子守りばんてん」を
胴着に作り直し「千枚田だより」を
書くときに着りん」と頂戴もした。
放送翌日、「いつけいさん」から取
材協力のお礼の電話で、まだ放送は
見ていないが我が家ヒストリー
に驚きと皆さんに感謝の一心であ
つたこと、近々母と一緒に故郷「連
谷」を訪れたい、と話が弾んだ。

や幼年期などの取材協力を行つた。
しまちやは四谷の千枚田の「大代
集落・うしろ山」で生まれ育つた。
※うしろ山は大日如来・祇園田楽発
祥の地として知られる。
住いは人里離れた棚田の「ぼつん
と一軒家」でランプ生活。通学は三
つ違いの妹と一時間あまりの山道
「与良木峠」を超えて通学。伊藤家は
美男美女の家系であつた。
ここではヒストリー番外編とし
て「しまちやは」との絆について延べ
る。しまちやは豊川市一宮町の渡辺
家に嫁ぎ「一恵」を授かつた。
私が県水試に勤めていた頃には
家も近く、同級生のこっちや(のざ
わや食堂)や富ちゃん(原田医院)、妹